

2009 年度 性教育の現状と課題

性教育の現状と課題

～生徒が望む性教育と実際の性教育～



保健栄養学科保健養護専攻
飯島 朱子
佐野 由麻
渡辺 多恵子

課題意識

- HIV感染者の増加
- 10代の人工妊娠中絶者約2万3000人（平成20年厚生労働省報告書）

軽視できない現状

性教育を行う家庭は少ない

子どものいる家庭の41%が共働き
総務省統計局「労働力調査／労働力特別調査」（平成19年）

- これらのことから、学校での性教育が重要であると考え
- しかし、実際には2002年度から学校の性教育に対する非難が増加しているため、学校での性教育は困難になっている。
- 子どもたちは、適切な性教育を受けないまま、性行動に至っているのではないか。

研究の目的

- 子どもたちを取り巻く環境や性に関する子どもたちの実態を明らかにする。
- 生徒のニーズと実際に行われた性教育の実態を把握し、より適切な性教育の創造のための課題を明らかにする。

方法

- 関連文献および関連資料の収集と検討
- 大学1年生を対象とした質問紙(振り返り)調査

第1章 10代をとりまく性の実態

1) 1. 性感染症

表1 性器クラミジア感染症感染者の年次推移

	男		女		合計	
	10～14歳	15～19歳	10～14歳	15～19歳	10～14歳	15～19歳
平成12年	6	1,544	45	4,102	51	5,646
平成13年	17	1,656	67	4,703	84	6,359
平成14年	15	1,750	85	5,051	100	6,801
平成15年	7	1,547	75	4,616	82	6,163
平成16年	11	1,218	53	3,951	64	5,169
平成17年	3	969	45	3,533	48	4,502
平成18年	7	810	37	3,012	44	3,822
平成19年	8	715	33	2,566	41	3,281
平成20年	5	669	39	2,501	44	3,170

- 平成20年の報告者数は平成14年の46.6%
- 10代の性感染症感染者は減少傾向にあるといえる
- しかしこの人数は氷山の一角と考えられる

理由として・・・

- 症状が出にくい
- 10代の若者が医療機関を受診しにくい
- コンドームの出荷量が減少している

1) 2. HIV感染

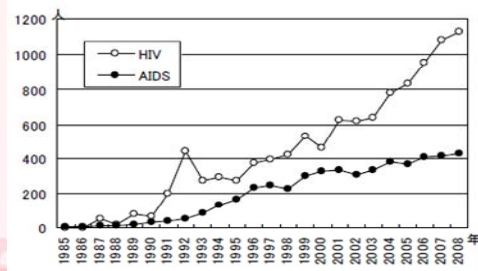


図1 HIV感染者及びAIDS患者報告数の年次推移
出典 2008年 厚生労働省 エイズ動向委員会

- 日本は先進国で唯一感染者が増加し続けている(平成20年は1126件)
- 性感染によるものが88.7%を占める
- 同性間性的接触が69.2%
- 異性間性的接触が19.5%
- 日本の成人感染率は0.1未満

cf アメリカ合衆国 0.6 英国 0.2

2) 人工妊娠中絶

- ① 10代の人工妊娠中絶は減少している
平成13年 13.0
平成20年 7.8 (1000人当たりの実施率)

原因として・・・

- 性交への興味の薄らぎ
- 低用量ピルの認可と服用者の増加・緊急避妊用ピルの知識の普及

3) 性意識性行動調査

東京都幼・小・中・高・心性教育研究会

『2008年児童・生徒の性意識性行動調査』結果より

① 中・高校生の性交経験

- 中学校3年生男子 5.5%
- 中学校3年生女子 8.3%
- 高校1年生男子 24.5%
- 高校1年生女子 24.3%
- 高校3年生男子 47.2%
- 高校3年生女子 46.5%

2005年から大きな変化なし

2005年から
男女ともに約10%増加

男子の性交経験が女子を上回った

② 中・高校生の性意識

- ① 中学生男子で性交を「経験してみたい」と思っている者が著しい
99年→08年では40%近く減少(男子)
性交のマイナスイメージ
・恥じらい
・抵抗感
- ② 性感染症の予防・避妊についての意識は高いとはいえない

注意しなかった

覚えていない

第2章 学校における性教育と世論

1) 学習指導要領における性教育の変遷

- ① 1945～1971年 純潔教育期
- ② 1972～1988年 (純潔教育化から転換した) 性教育期
- ③ 1989～2001年 エイズ予防対策期

〔1992年施行 学習指導要領・・・「性教育元年」〕
小学校理科 性に関する教育が行われるようになる
「初潮、実声」→「初経、精液」
小学校で初めて保健の検定教科書が使用される
〔1995年 「ベニス」「ワグナ」の語を記載した教科書が検定合格〕

- ④ 2002年以後 「性教育バッシング」期

2004年 小学校保健の教科書から「ベニス」「ワグナ」の語が消え、「陰茎」「膣」となる
理科では「受精に至る過程は取り扱わないものとする」と記述される

出版社名	教科書名	性器の記述	性の取り扱い
東京書籍	新しいほけん (3・4年)	いんけい ちつ	思春期の変化のみ
学研	新・みんなのほけん (3・4年)	いんけい ちつ	思春期の変化のみ
東京書籍	新しい保健 (5・6年)	(記述なし)	HIVの記述のみ
学研	新・みんなの保健 (5・6年)	(記述なし)	HIVの記述のみ

出版社名	教科書名	性器の記述	性交についての記述
学研	新中学保健体育	いんけい 膣	性的接触
東京書籍	新しい保健体育	陰茎 膣	性的接触

2) 近年の性教育批判について

- ① 1992年「性教育元年」

週刊誌による
批判!

小学校の
「性交教育」
これでいいの?

これは、「性教育」の名を借りた
「思想教育」だ

小学生から高校生までの
「セックス」教材

「ストリップショー」の中の
「本番まな板ショー」にそっくり

報道内容	場所、学年	報道日
ラブ＆ボディBOOKに対する指摘		2002/6/29～
過激な性教育は虐待だ (執筆 山谷えり子氏)		2002/10/14
「ふれあい」「快楽の追求」性行為客観的指導書	神奈川県相模原市 小中学生	2002/11/2
小1の授業で性教育 保護者が抗議、校長謝罪	東京都国立市 小学1年	2002/11/16
米で禁欲教育広がる 日本はコンドーム推奨 性交の自由 主張の教師集団も		2002/12/16
小5に過激性教育	東京都北区 小学5年	2002/12/24
「性器写真内容不適切」小6授業に出席ビデオ	東京都八王子市 小学6年	2003/4/10
「性的虐待アニメビデオ」で性教育	東京都町田市 小中学校	2003/7/2
七生養護学校事件	東京都 七生養護学校	2003/7/3～
高校でも性教育逸脱	神奈川県川崎市 高等学校	2004/1/9

ラブ&ボディBOOKとは→中学生向けに配布された冊子
(厚生労働省外郭団体/母子衛生研究会)

作成目的→健康な心とからだや性について正しい理解をしてもらう。

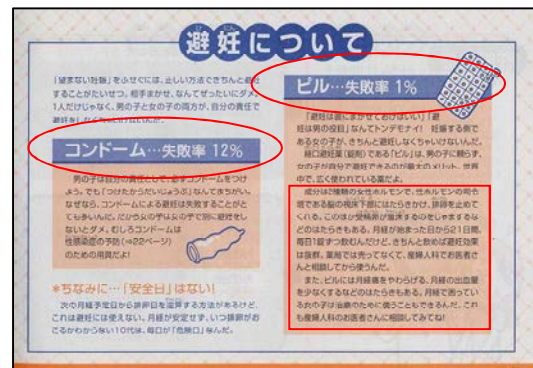
→

衆議院議員の山谷えり子議員による指摘

主な指摘内容→避妊を教える、ピルを推奨、ピルの製薬会社より出資を受けている等

→

これを受けて本冊子は絶版となった
すでに自治体、教育委員会に配布されたものは回収となった



① 「ここからからだの学習」→性教育だけでなく身だしなみ等の総合的な教育

② 主な内容→

- 「からだうた」
- 「性器の模型付き人形」
- 「胎児体験用ベッド」など

過激性教育！！

産経新聞・ゴシップ誌などが報じた

背景

加害児が将来自立のために必要なスキルを身につけることができるように、自然な振る舞いができる大人になってほしいという願いや、性犯罪の被害者にも加害者にもさせないという強い思いがあった。こういった保護者の要望や実態を踏まえて行った授業であり、校長、教頭、教員などからは高い評価を得ていた。

- 報道内容の焦点の当て方に偏りがある
（「**性的接触**」「**性交**」のみに焦点を当て、批判している）
- 発言力を持った政治家や新聞記者は、現状の把握が十分でない
- 性教育・セクシャリティに対する視野が狭い
- 偏ったメディアの報道に惑わされず、子どものニーズと現状を把握した上で、学習指導要領、性教育のあり方、指導者研修の内容の見直しが必要である

- **調査目的**
 - ・高校卒業までに受けた性教育の内容を知る
 - ・性交(セックス)についての考え方、捉え方を知る
 - ・性の情報をごどこから得ているか、性の悩みの有無について知る
- **調査時期**

平成21年12月10日～平成22年1月25日
- **調査対象**

大学1年生 男女183名

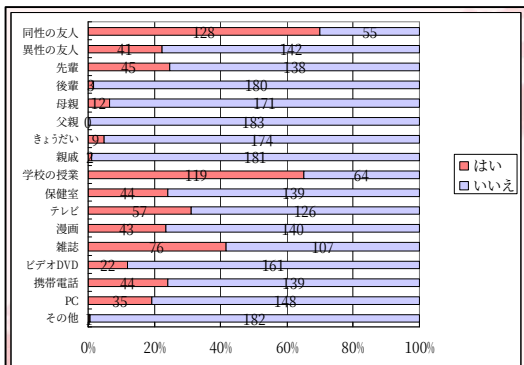
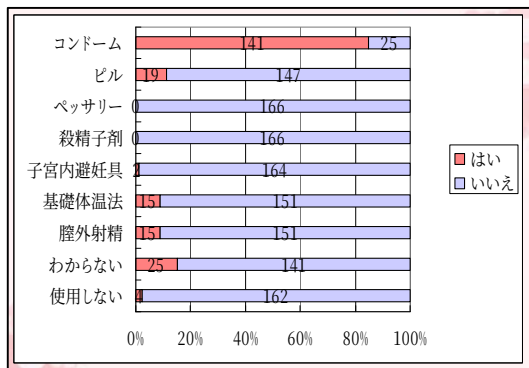
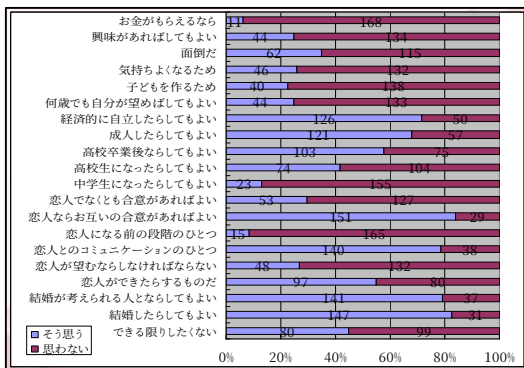
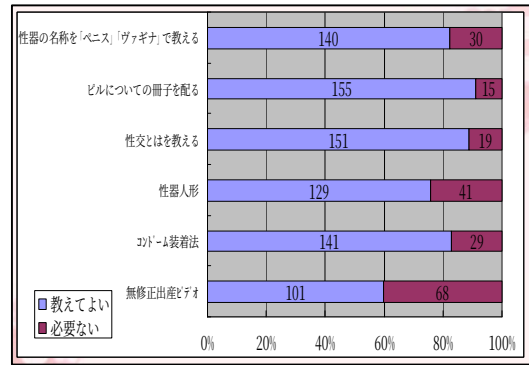
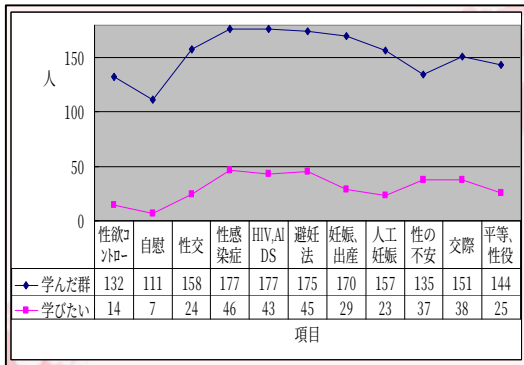
(男子31名 女子147名 その他の性4名 性別無回答1名)	
女子栄養大学 保健養護専攻	62名
実践栄養学科	48名
食文化栄養学科	35名
その他の大学等	38名

② 下記の通り4項目に分けて調査を行った
(□内は質問番号)

- ① 対象者の属性：【欄外】
- ② 性教育：【1】 【2】 【3】 【4】 【5】 【6】
【7】 【8】 【9】
- ③ 性交(セックス)：【10】 【11】 【12】 【13】 【14】
- ④ 性の情報：【15】
- ⑤ 性の悩み：【16】

- ◎ 98.4%の学生が今までに性教育を受けてきている。「保健科」「その他（外部講師の講演、集会等）」で学んだ者が多い
- ◎ 学校で性教育をやるべきだと思う学生は97.8%と大多数を占める

1	月経の時	85名
2	避妊の時	34名
3	性交の時	26名
4	交際する時	23名
5	自慰行為する時	4名
6	その他	1名



2) 質問紙調査の結果より

男子像

- 性情報の入手に能動的・非現実的
- 恋人関係＝性交関係という傾向が強い
- 性交のHOW TO的内容に興味ありと推測できる

女子像

- 性情報の入手に受動的・慎重・現実的
- 直接自分の身体や人生に影響のある項目に興味あり

性知識や性行動の二極化

性知識が豊富

- ・初交年齢が低い
- ・同性異性の性情報源を多く持つ
- ・性交経験率が高い

性知識に乏しい

- ・「おまんこ」を受け入れる者もいる
- ・何を「性」として選択しよいか分からない
- ・自由記述「性のことがまったくわからない」

4) 質問紙調査の課題

- 母集団に偏りがないように適切に抽出する必要があった
- 質問紙調査の男女比を等しくする努力が必要
- 質問紙に男性の視点も取り入れるべきであった
- 回答者にわかりやすい用語、語句を使用する必要があった
- 質問紙のレイアウトを練り直す必要があった

第4章 今後の展望

- 授業の工夫と創造の必要性
- セクシャル・マイノリティに対する配慮
- 性的接触という単語の使用に関して
- 避妊法と性交の指導について
- 学校と地域、保護者、児童・生徒の信頼関係について
- パートナーとの関係性作り
- 性教育をする側のスタンス

ご清聴
ありがとう
ございました

Special Thanks !